

国管理空港のコンセッション（公共施設等運営権制度）について

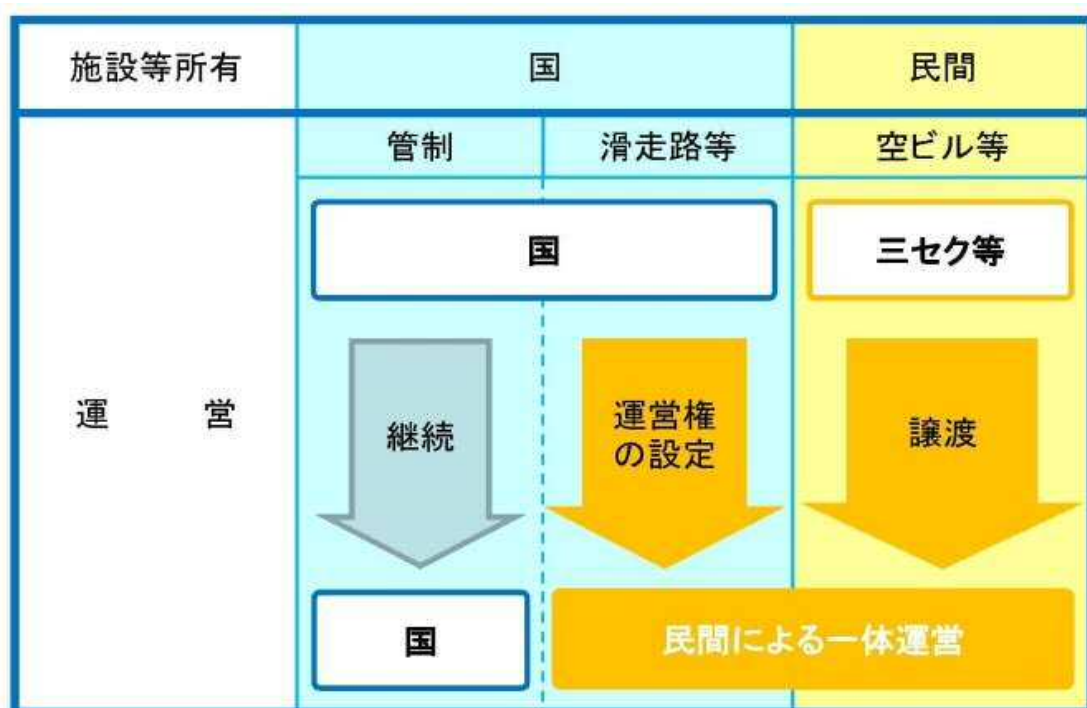
1 国が進める空港経営改革

2013年施行「民間の能力を活用した国管理空港の運営等に関する法律」

PFI法の公共施設等運営権制度（コンセッション）を活用し、運営の民間委託を推進する。

2 コンセッション（公共施設等運営権制度）

- ・民営化に限りなく近いが、長期間にわたる運営権の譲渡であって、空港の基本施設等の譲渡を伴わない（土地、基本施設、航空保安施設等の所有者は国）。
- ・運営権：公共施設を運営できる権利。ただし、一定の航空規制は当然かかり、全てが自由というわけではない。また維持更新投資、大規模修繕投資は民の義務。
- ・管制業務は対象外。
- ・国との事業契約により、所掌、責任、義務を取り決める。一定期間にわたる運営権の価値を対価として国に支払う。



▲空港コンセッションスキーム

3 他空港におけるコンセッション（2019 年 4 月時点）



※関西・伊丹空港（H28.4）、但馬空港（H27.1）、神戸空港（H30.4）、鳥取空港（H30.7）、静岡空港（H31.4）、南紀白浜空港（H31.4）では、運営の民間委託を開始

運営する民間企業コンソーシアム(2019 年 4 月時点)

管理	空港	企業構成
会社	関西国際空港 ・大阪国際空港	オリックス（代表企業） VINCI Airports S.A.S、その他関西企業等 30 社
国	仙台空港	東京急行電鉄（代表企業）、前田建設工業、東急不動産、豊田通商、東急エージェンシー、東急建設、東急コミュニティー
	高松空港	三菱地所（代表企業）、大成建設、パシフィックコンサルタンツ、シンボルタワー開発
	福岡空港	福岡エアポート HD（代表企業）、西日本鉄道、三菱商事、Changi Airports International Pte. Ltd.、九州電力
地方	但馬空港	但馬空港ターミナル
	神戸空港	オリックス（代表企業）、VINCI Airports S.A.S、関西エアポート
	鳥取空港	鳥取空港ビル
	静岡空港	三菱地所（代表企業）、東京急行電鉄
	南紀白浜空港	経営共創基盤（代表企業）、みちのりホールディングス、白浜館

4 仙台空港、高松空港の事例から見る民間委託による効果

仙台空港の運営委託による成果



- 仙台空港は、平成28年7月より仙台国際空港(株)による運営が開始。
- 仙台空港から宮城県外の東北地方各所への2次交通の充実、柔軟な着陸料設定や積極的なエアポートセールスによる路線の誘致等、民間の創意工夫を活かした運営が進められている。

施設整備による利便性の向上

(出典: 仙台国際空港(株))

○新旅客搭乗施設(ピア棟)建設・供用開始
(2018年10月～)



○ローコスト構造・運用をコンセプトに設計。
国内線搭乗口が6から10力所に増加。
発着機輻輳時の旅客処理能力が拡大。

民間委託を通じた路線拡充の動き

アシアナ航空ソウル線の増便	
◇仙台～ソウル便を増便(週4便→週7便)	平成28年6月28日～
タイガーエア台湾(国際線LCC)新規就航	
◇仙台～台北便を新設(週5便)	平成28年6月29日～
◇仙台空港として初めての国際線LCC	
エバー航空台北線の増便	
◇仙台～台北便を増便(週2便→週4便)	平成28年10月12日～
スカイマーク神戸線の就航	
◇仙台～神戸便を再開(1日2往復)	平成29年7月1日～
Peach(LCC) 仙台空港拠点化、新規就航	
◇仙台～札幌便を新設(1日2往復)	平成29年9月24日～
◇仙台～台北便を新設(週4便)	平成29年9月25日～
フジドリームエアラインズの新規就航	
◇仙台～出雲便を新設(1日1往復)	平成30年4月20日～

【仙台空港就航便数】
平成31年夏ダイヤ期首
⇒414便/週
+47便
平成28年夏ダイヤ期首
(運営開始前)
⇒367便/週

旅客数及び収益の増加

○旅客数の目標値

	開始5年後 (平成32年度)	30年後 (平成57年度)
旅客	410万人	550万人
国内	362万人	435万人
国際	48万人	115万人
貨物	1万t	2.5万t

○旅客数の実績値

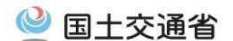
	平成27年度 (運営開始前)	平成30年度 (運営3年目)	
旅客	311万人	361万人	過去最高
国内	295万人	330万人	開始前比 12%増
国際	16万人	31万人	開始前比 94%増
貨物	0.7万t	0.7万t	

※平成30年度の実績は速報値

空港アクセスの拡充

鉄道	◇仙台空港～仙台(3往復増便)	平成29年3月4日～
バス	◇福島会津若松と直結する高速バス路線開設(1日3往復)	平成28年11月14日～
	◇松島・平泉を直結するバス路線開設(松島:1日4往復+2便/平泉:1日2往復)	平成29年1月25日～
	(平泉の1往復を花巻空港まで延伸)	平成30年5月11日～
	◇酒田・鶴岡方面を直結する高速バス路線開設(1日1往復)	平成29年4月11日～
	◇山形駅を直結するバス路線開設(1日4往復)	平成29年4月21日～
	◇秋保温泉・みちのく公園直結バス路線開設(1日6往復)	平成29年9月20日～
	◇仙台駅前エアポートリムジンバス路線開設(1日3.5往復)	平成31年3月16日～
季節限定	◇安比高原(盛岡駅経由)シャトルバス(冬期運行)	平成29年12月～
	◇山形蔵王スキー場シャトルバス(冬期運行)	平成29年12月～

高松空港の運営委託による成果



- 高松空港は、平成30年4月より高松空港(株)による運営が開始。
- 「アジア・世界とつながる四国瀬戸内No.1の国際空港」を目指し、複数のLCCの拠点化、魅力的な商業施設づくり、地域共生など民間の創意工夫を活かした運営が進められている。

施設整備による利便性の向上

※出典: 高松空港(株)

立体駐車場の建設(2019.4.26供用開始)

収容台数が1003台⇒1393台に大幅拡大



国内線搭乗待合室エリア拡張



旅客数・貨物量の増加

※2018年は速報値

国内線・国際線ともに過去最高を記録

	2015年 (運営委託前)	2018年 (運営委託後)	2022年 (5年後目標)	2032年 (15年後目標)
旅客数	180万人	209万人	260万人	307万人
国内	165万人	177万人	209万人	225万人
国際	15万人	32万人	51万人	82万人
貨物量	0.6万トン	0.6万トン	1.3万トン	1.7万トン

路線拡充の動き

✦ジェットスターJAL: 高松～成田の増便(2便/日→3便/日) 2018.4～
✦エアリアル: 高松～ソウルの増便(5便/週→7便/週) 2018.10～
✦チャイナエアライン: 高松～台北の増便(6便/週→7便/週) 2019.3～

	運営委託前:2017年ダイヤ	運営委託後:2019年ダイヤ
国内線	3路線112便/週	3路線115便/週
国際線	4路線20便/週	4路線23便/週

- エアライン誘致等協議会の立ち上げ 2018.6
- 高松～ベトナムチャーター便の運航が決定 2019.GW

その他の取り組み

- 地域の魅力向上
 - ✓ NEOHENRO/四国ネオ通路キャンペーン
 - ✓ 隣接県と連携した広域周遊プロモーション
- 交通アクセスの充実
 - ✓ 定期バス路線開設(祖谷・琴平、高知駅)
 - ✓ バックアンドバスライド
 - ✓ カーシェアリング導入
 - ✓ 駐車場事前精算機を新設



- 受入環境整備
 - ✓ アドバイザリーボードの設立
 - ✓ ホームページ多言語化
 - ✓ 税関の常駐化

